

『人命救助』

高田 寛次

大日本武徳会の歴史、世紀の大会が植樹式に始まり、第五十回全国武徳祭・第四回世界武徳祭が理事長陣頭指揮の下、諸先生方の絶大なご支援並びにご指導を賜り盛大に開催されました。

長きに亘る計画・運営方法と度重なる会議が実を結び、過ぎてみれば懐かしい思いが交差し大日本武徳会歴史的一幕を演出した。思いと、世紀の大会（行事）に立会えた感動と歓びを誇りに思う。翌日、国際部の武道演武大会を最後に全ての行事が終わりました。

本記念大会に参加した国際部の選手達は、帰国の途に就く準備等に専念しているなか、国際部アメリカ支部の最終反省会を済ませた中村元哉・ジェフ・ウィリアムズ両君は、五月一日午前二時十五分頃、定宿していた「平安の森ホテル」からウエスティンホテルに赴き、国際部の参加者が投稿した「俳句集を回収すべく、「平安の森」をタクシーにて出発した直近、タクシーが交差点で停止したその時、ウィリアムズ君が車内から前方右手に人影を発見した。その人影はふらつき乍ら数歩歩み、突然頭部より逆さま

に川底に転落したのを目撃し、停車中のタクシーを二人で降りて転落した人影を確認し、約三メートル下の川に入り頭部を川底にして倒れている女性を発見した。

急遽中村は、タクシー運転手に連絡の上救急車の手配を依頼し、その間ウィリアムズは女性の容態を検証、頭部から相当の出血があり、自らの背広上着を脱ぎ出血の傷口を押えて手当を施し中村と協力し女性を道路上に移動した、精神的な動揺が窺えたので「大丈夫です」と勇気付けた。その時女性から強いアルコールの臭気を感じた。

念のため「名前は」と聞くと、弱々しく「TCHOI」と答えた。十数分後救急車が到着し、女性は隊員三名から応急処置が施された、ウィリアムズは事故の経緯を隊員に伝えたが、念のため警察に届ける必要があると説明されたが、ウィリアムズ・中村には残された時間が無くその場は救急隊員に任せることにした。

救急隊員から「君達は彼女の命の恩人」とあると言われた。我々は武道家であつて当然のことをしただけであり、武道の残心が我々の冷静な行動を支えてくれました、彼女の回復を祈ります、人命救助にお役に立てて光栄です。と謙虚な状況報告を送ってくれました。

五月二日午前十時三十分、濱田先生より「ウィリアムズと中村元哉」が、とある場所で川に転落した女性を救助した事実の電話連絡を受け、人命救助の美談であり大日本武徳会として何等かの賞詞に値すると判断し、即、京都市右京消防署警防課に赴き、場所は不明であるが、五月一日午前二時十五分頃その時間帯に消防署の救急車が出動した事実の確認を依頼したが、場所が不明であ